

いろあくとう  
イタリア「色悪党」列伝

カエサルからムッソリーニまで  
ファブリツィオ・グラッセツリ

権力か、性欲か。それが問題だった7人の男たちの物語



色を好んだ史上最強の英雄、ユリウス・カエサル。禁忌の愛欲を犯したローマ法王ロドリゴ・ボルジア。ベッドの上でモナ・リザの微笑を発見したレオナルド・ダ・ヴィンチ。「暴れる筆」を持つ狂気の天才画家カラヴァッジョ。華麗なる夜の外交官カサノヴァ。歌に生き、恋に生き、女に耽ったマエストロ、プッチーニ。セックスと権力に溺れた独裁者ムッソリーニ。



史上最強の古代ローマ帝国、芸術が開いたルネサンス文化——。世界史を動かしてきた栄光の国、イタリアの英雄たちは権力欲ばかりか、性欲もすごかった！  
皇帝から芸術家まで、女好き（パッパガッロ）なイタリア偉人たちの華麗にして壮絶な人生！

ファブリツィオ・グラッセツリ イタリア語教師。文化団体「ダンテ・アリギエーリ協会」東京支部の会長。1955年、イタリア・ミラノに近いクレモーナに生まれる。ミラノ工科大学を卒業後、建築家として数カ国で活躍。イタリア語学校「イル・チェントロ」校長でもある。著書に『イタリア人と日本人、どっちがバカ？』『イタリアワイン<sup>秘</sup>ファイル 日本人が飲むべき100本』（ともに文春新書）。

7月20日発売 288ページ／本体780円＋税

著者インタビュー取材、書評等のお問い合わせは文春新書編集部 谷村友也までお願いします。

電話03-3288-6154 / tanimura@bunshun.co.jp